

＜テーマの設定理由＞

テーマ 泥んこ遊び

乳児期から泥んこ遊びを楽しみ、泥や水の感触に親しんでいる。泥んこになって遊ぶことは、想像を膨らませてやり取りや遊びを広げていくことが出来る。暖かくなってきた時期に全身泥んこになり思い切り遊びたいと考えテーマにした。

＜活動スケジュール＞

1年を通して砂水遊びを継続的に取り組んでいる。
この日は園庭に出て午前中の時間、遊びを展開しながら砂水遊びを行った。

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

前日に雨が降り、園庭に出来た水たまりに興味を持つ。
数人の子が、水たまりを見つけて水の中にジャンプをする。着地をすると水が跳ねることに気が付き、それが顔に跳ねたことにケラケラ笑いはじめ、何度も繰り返して遊び始める。それを見て他の子も水たまりに入り始める。
「ぬるぬるしてる〜」「あったかい〜」と最初は足で触って確かめていたが、段々と動きが大きくなっていく姿があったので、大人が違う場所にも水を増やし、大きな水たまりを作る。するとそこで豪快に走り回ったり、泥んこの中に寝そべったり、大きくジャンプをして水が跳ねてくるのを楽しむ。更に水たまりを大きくしようとバケツで水を汲んでくる子もいた。

一通り感触を確かめてから…
バケツで水をくんでいた一人の子が、砂場の中にも水たまりを作ろうと小さい穴を掘り、水を流し始める。しかし水を入れると、小さい水たまりはすぐになくなってしまう。
砂が水を吸い込んでいく様子を何度も何度も一人で繰り返して楽しんでいた。
しばらく遊ぶと満足したのか、「見てみて〜」と大人や友だちに伝えて見せてくれた。
それを見た友だちが穴の中に器を入れ水を入れようとする。（溜めようとする）
どうやったら水がたまるか、Bちゃんは試行錯誤しているようだった。
そこで大人が大きくしてみようかと提案し、砂場に大きな穴を掘りレジャーシートを敷く。
子どもたちと一緒に水を運んできて水を入れると、少しずつ水はたまる。
子どもたちは水が溜まっていく様子に不思議そうにする。
一人の子が「もっともっと」と水を運び始める。
そのうちに大きな水たまりが出来ると、数人が泥水の中に入り遊び始める。
周りにいた子もいつの間にか全身泥だらけになって遊んだり、傍では慎重に足だけ入れる子、手で触るだけの子、等それぞれのかたちで砂水に触れる様子が見られた。

最初に泥水に触れた時は、「冷たい」と言っていたが日が出てくると冷たさがなくなり、「温かい〜」「お風呂みたい」「気持ちいいね」と友達同士で言い合い、泥水に座わったり、寝転がる姿も見られた。温度の変化で遊びが変わったり広がっていく様子があった。



○振り返り

- 泥んこ遊びは日頃から行っているが、雨の翌日に水たまりを見つけ、「入ってみたい!」という興味から遊びが広がっていった。最初は小さい水たまりにジャンプするところから始まったが、遊びがダイナミックになっていったので、子ども達と一緒に水たまりを大きくすると池のようになり、そこからまたジャンプしたり、寝そべったりする等、遊びが変化していった。
- 砂の上に水を流すといつの間にか吸い込んでしまう、という不思議さを経験し、どうすると溜まるのか?をやってみて繰り返した後、大人がビニールを敷く等、環境を作ったことで、水がたまる楽しさを感じたり、そこからまた遊びが広がっていったように感じる。子どもたちの不思議、なんで?を大切にしていきたい。
- 水たまりに最初に入った時に子どもが水を冷たいと感じたが、お日様が上がると水の温度の変化に気付き、座ったり、寝っ転がったりと遊びが広がっていく姿があった。
子どもたちが遊ぶ中で自然に、土や水の温度の変化を感じたり、お日様の温かさ、風の冷たさを感じながら遊んでいることが分かった。
- 子どもの興味に気付き、大人のしかけをどのようにしていくか、考えていきたい。